



大井町立相和小学校

学校通信

発行日
令和2年10月23日

発行者
中山 喜幸

そうわ通信 10月号

全校歩き遠足～なかまと関わる楽しさ・心地よさ～

キラキラ遠足【下山田ウォークラリー】9月25日

相和小学区には豊かな自然があります。児童の体力向上にむけた取組も兼ねて、全校児童が徒歩で地域を巡りながらこの豊かな自然を感じる。それと同時に、地域の人たちや友達と関わる楽しさ・心地よさを味わうことをねらいとして、「キラキラ遠足」は始まりました。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症対策を行っている中で、従来のような「キラキラ遠足」を行うことは難しい状況です。そこで、緊急時の対応がしやすいように近場にすること、昼食は普段通りの教室での給食とすること、毎年ご協力いただいているボランティアについては人数を制限すること、各班が一緒になることがないように、別々のルートで、下山田を巡るようにすること等、工夫して行うこととしました。

下山田自治会館、天神社、了義寺、東明学林の四カ所をスタンプラリーのポイントとして設定し、それらをまわる順序やそこでみんなで遊ぶ内容など、6年生が中心になって考えました。

ある班では、「だるまさんがころんだ」を楽しみました。高学年は、真剣に、それでいてユーモアのある動きをしたり、低学年の多少の体のふらつきを大目に見たりと、みんなで楽しい雰囲気をつくっていました。

給食後は、各相和っ子班ごとが教室に集まり、出されていた課題の発表の準備をしました。その後、全校が体育館にあつまり、終わりの会をして、楽しかった半日を振り返りました。



田んぼ育成会の方々のご協力・ご指導を得て味わう「収穫の喜び」

《 稲刈り体験（5年生）10月6日（火） 》

今年度も、田んぼ育成会の方々のご指導のもと、5年生が米作り体験をしました。6月9日（金）に田植えを体験させてもらってから、5年生の生長観察が始まりました。9月11日（金）に草取りを行ったときにも、田んぼ育成会の方に来てもらいご指導いただきました。

この日の稲刈りでは、5年生は慣れない手つきでしたが、教わったように根気よく作業を続けました。そうした5年生を田んぼ育成会の方々には、温かく見守っていただきました。稲の刈り方や結び方について時折指導していただいたり、子どもたちの作業の進み具合により手を貸して下さったりして、時間内で終わるように気を配ってくれました。

米作りの体験をとおして、子どもたちが学んだことは、学習発表会で披露することとなります。



協力する楽しさと収穫の喜び～お世話になった方への感謝とともに～

「サツマイモ収穫 9月29日(火) [相和っ子班活動]」

サツマイモを収穫する前日のうちに、職員でつる切りをしました。そして、当日の朝、5・6年生が、畑に伸びたつるをどかせ、畝にかけてあるマルチをはがしました。つるは土に戻りますが、マルチは違います。マルチのきれはしが畑に残らないように、5・6年生は気を配っていました。

こうして、収穫する準備のできた畑で、今年度は密を避けるため、二手に分かれて収穫をしました。今年は、少々生育状況が心配されましたが、それでも、掘り進めていた子どもたちからは、「大きい！」という声があがっていました。土の中で大きくなったサツマイモを掘り出すのに、子どもたちは苦勞していました。それでも、途中で折ったりしないよう気をつけながら根気よく掘り進め、ようやく土から掘り出したサツマイモを満足げに見つめていました。

今年度は、イノシシの被害がありそうだと地域の方に教えていただき、電気柵を設置するのに町役場の方に、力を貸していただきました。



「収穫祭 [感謝の気持ち・おもろいも紹介・ゲーム・焼きいも] 10月16日(金)」

収穫祭についても、どのような実施の仕方がよいか、検討を重ねてきました。少人数であることを生かして密にならないように工夫し、マスク着用での活動とすることにしました。

この日の1時間目に収穫祭の準備をしました。5・6年生は、校庭で焼きいもをする薪を組みました。今年度の相和っ子班は4つあります。まず、十分に間隔をとった4カ所にトタン板をしきました。そして、その上に薪を組みました。

1～4年生は、サツマイモの準備をしました。その手順を1～3年生に説明するのが、4年生の役割です。これまでの3回の経験を生かし、分かりやすく説明していました。3年生も昨年度とは違って、1・2年生のことを気にしながら作業をしている様子がありました。

毎年、同じ作業をしますが、子どもたちにとっては、自分たちが担う役割は変わっていきます。そして、そこには、確かに成長した子どもたちの姿を見ることができます。

収穫祭のはじめに、環境委員会の子どもたちが書いた「お世話になった方々への手紙」を全校に紹介し、続いて「おもろいも」(面白い形のいも)とそれにつけた名前を、工夫した寸劇を交えて、各班が楽しく紹介しました。

それから、いもが焼き上がるまでの時間は、「いもさがしゲーム」「クイズラリー」「いもぼくだんゲーム」などを、参観に来られた保護者の方々も交えて、楽しみました。いもを焼くのを手伝ってくださった保護者の方々の額には、うっすら汗がにじんでいました。熱い火のそばで子どもたちのために、ほどよくいもを焼いてくれました。焼き上がったいもは、1年生から順に選んでとります。参観者の方々とも一緒においしい焼きいもを食べながら、子どもたちは、収穫の喜びとともに、地域の様々な人たちの思いによって、自分たちの学校生活があることも感じたことと思います。

